

序文

背景

IFLA（国際図書館連盟）にはさまざまな手段を通じ、図書館資料の保存管理に関する原則の承認と普及を奨励していく責務がある。

「図書館における保存と修復の原則」は、*IFLA Journal* Vol.5 pp.292-300(1979)に最初に発表された。^(訳注1)これは IFLA 資料保存分科会の後援のもとジャンヌ＝マリー・デュローとデビッド・クレメンツによって改訂・拡充され、IFLA の *Professional Reports* No.8 として 1986 年に刊行された。^(訳注2)

1994 年に、IFLA-PAC（国際図書館連盟資料保存コア・プログラム）は「1986 年版原則」の改訂に向け、意見を集約するための調査を開始した。調査は、幅広い機関に所属する資料保存の専門家と団体（司書、アーキビスト、ICA（国際文書館評議会）、IFLA-PAC、IFLA 資料保存分科会など）を対象に行われた。

「1986 年版原則」の刊行以降、資料保存に関連するさまざまなテーマの論文や図書が数多く出版されてきた。これは現在における「資料保存」のさまざまなテーマを反映していると同時に、図書館界において「資料保存」がそれなりに市民権を得たことにもよる。とはいえ、今日でも世界には、蔵書の保存対策を実施する上での指針を必要とする図書館が存在している。そこで IFLA-PAC は「1986 年版原則」の改訂に際し、次のような方針を定めた。すなわち、記述は簡潔にし、内容は各図書館が蔵書の予防的な保存対策を考える上で役に立つ重要なテーマに絞る。

IFLA-PAC 国際センターは、CLIR（米国・図書館情報資源振興財団）、特にディアンナ・マーカム氏、ハンス・リューティマン氏、マクシオン・シッツ氏、キャスリン・スミス氏らの支援と助言およびこの出版物を我々に任せてくれたことに感謝を申し上げる。

「IFLA 図書館資料の予防的保存対策の原則」の原文である英語版は、CLIR <<http://www.clir.org>> または、IFLA <<http://www.ifla.org/VI/4/pac.htm>> のウェブサイトから入手できる。^(訳注3) また IFLA では、必要な場合は更なる改訂版を刊行するつもりである。

目的

この冊子は、資料保存の知識がほとんどない、あるいはまったくないような個人や機関に向けた、図書館資料の予防的保存対策に関する一般的指針である。

といっても詳細な方法や実際の作業手順を総覧するのではなく、図書館が蔵書の保存対策を考えるにあたり、責任ある態度をとるための助けとなる基本的知識が得られるものである。

蔵書へのさまざまな脅威はしばしば指摘される。しかし、これを無視した結果について、司書は十分に行き届く声で警告してこなかった。

「IFLA 図書館資料の予防的保存対策の原則」は、科学や技術の専門家とともに、こうした結果に向き合い、蔵書の未来のために建設的な方針を立てる図書館の責任の一助になることを目的に作成された。

この冊子の主な目的を次にあげる。

- ◆ 図書館資料が傷みやすいものであることを明らかにする。
- ◆ 図書館資料の長期耐久性、耐用性についての知識を深める。
- ◆ 適切な予防的保存対策を奨励する。
- ◆ 図書館職員に対し、資料保存問題解決の手助けをする。
- ◆ この問題について、管理責任者、施設管理者、保存部門の職員および他の図書館職員がなぜ相互に協力しなければならないのかを明らかにし、結果として蔵書保存に対し、すべての職員の関心が向かうようにする。

編集後記

この「原則」一冊で、資料保存のさまざまな問題にこたえることはできない。このことはあらかじめ断っておきたい。そもそも「原則」自体が多くの参考資料をもとに作成された。うち一部分は参考文献の章に収録してある。^(訳注4) また「原則」はこのように簡潔な内容であるから、図書館資料の予防的保存対策に関する多くの話題の導入部に触れるにすぎない。したがって、「もっと詳しく」と望まれる読者には、以下にあげるものから、まず取り込まれることを勧める。^(訳注5) 以下の図書には、「原則」ではさわりしか述べることができなかった分野についても解題つきの書誌リストを収録している。

DePew, John N. *A Library, Media, and Archival Preservation Handbook*. Santa Barbara, CA: ABC-CLIO, 1991.

資料保存を考える上での基本的ハンドブック。紙の化学的・物理的性質をはじめ、環境管理、防災計画、資料の取り扱い、保存対策のための調査方法まで幅広く収録。図、表、グラフが多用されており、使用されている図表への索引もある。

Fox, Lisa L., Don K. Thompson, and Joan ten Hoor (eds. and comp.) *A Core Collection in Preservation*. Chicago: American Library Association, Association for Library Collections & Technical Services, 1993.

解題つきの書誌リスト。1988年に初版が刊行され、1993年のものは第2版。

Giovannini, Andrea. *De Tutela Librorum*. Geneva: Les Editions Institut d'Etudes Sociales, 1995.

1999年に第2版が刊行された。副題は「図書と文書資料の保存 (La conservation des livres et documents d'archives)」。本文はフランス語とドイツ語の2か国語併記。

Harvey, D. Ross. *Preservation in Libraries – Principles, Strategies and Practices for Librarians*. London: Bowker-Saur, 1993.

資料保存対策は保存部門の専門家だけでなく、すべての図書館職員が関心を払うべき話題であり、同時に組織の管理者が責任を持つべき問題であるという考え方に基づいて資料保存における各分野の考え方がまとめられている。主な対象は図書館職員。

Ogden, Sherelyn (ed.) *Preservation of Library and Archival Materials*. Andover, MA: Northeast Document Conservation Center, revised 1996.

1999年刊行の第3版は、約400ページ、50種類のリーフレットからなる。保存計画から修復手順まで資料保存全般を対象とし、各リーフレットごとが、独立に使用できる。専門用語を使わずに書かれていることがひとつの特徴。ウェブ上でも公開されており、随時訂正されている。

Reed-Scott, Jutta, ed. *Preservation Planning Program*. Washington, DC: Association of Research Libraries, 1993.

図書館の資料保存における主要7テーマを取り上げたシリーズ。論文・資料・書誌が収められ、各テーマごとに政策決定上必要な概念構成が得られるようになっている。1993年に改訂されたPreservation Planning Program: An Assisted Self-Study Manual for Librariesとの併用を目的としている。

Ritzenthaler, Mary Lynn. *Preserving Archives and Manuscripts*. Chicago: Society of American Archivists, 1993.

同著者が1983年に刊行したものの改訂版。文書館を対象。文書館資料の特徴、環境管理、修復保存と保存計画の関係のほか、修復保存処置についても豊富な図を用いて解説されている。用語や道具についても解説あり。

ところで、英語でのプリザベーション (preservation) という用語は、図書館における資料の保存対策を考える上で必要な管理や運営、財政、人事などのすべての方策を含むものと定義されている（「1986年版原則」を参照）。しかしながら、この冊子の中ではプリザベーションは「予防的保存対策」として、資料が化学的に劣化していくのを遅らせ、また物理的に損傷することから守るために行う適切なセキュリティ対策、環境管理、書庫管理、取り扱いを指すことにする。

一方、図書館資料のコンサベーション (conservation) すなわち「修復保存」については、「原則」の中ではあえて取り上げなかった。「予防的な保存」対策のほとんどが、一般職員により行われるのに対し、「修復保存」対策は、適切な道具や設備と知見を持つ、教育を受けた専門家のみにより行われるからである。「修復保存」はまた、手間とコストが非常にかかる作業である。このよう

な作業を館内で行える機関は世界中にもほとんど存在しない。したがって、この冊子は多くの図書館が実行できるような、蔵書の劣化を防いだり遅らせたりする対策に的を絞った。

訳注

- (1) “Principles of conservation and restoration in libraries”. *IFLA Journal* Vol.5, pp.292-300, 1979.
日本語のものには、
全訳 『コーデックス通信』資料1 (1986)
部分訳 『ゆずり葉』第39号 (1986)
同 『IFLA 資料保存の原則』日本図書館協会 (1987)
同 資料保存協議会・資料保存のためのデジタル図書館
<<http://www.con-con.org/conconlib/ifla01.htm>>
- (2) J.M. Dureau and D.W.G. Clements under the auspices of the Section on Conservation. *Principles for the Preservation and Conservation of Library Materials*. (IFLA Professional Reports: 8). The Hague: IFLA Headquarters, 1986.
日本語のものには、
『IFLA 資料保存の原則』日本図書館協会 (1987)
- (3) 本文部分の邦訳は国立国会図書館のウェブサイト<<http://www.ndl.go.jp>>にも掲載している。
- (4) 邦訳にあたっては、原文に掲載されていた参考文献を割愛し、国内で刊行された資料保存関係の図書・論文を「第9章 参考文献」として収録した。
- (5) 日本語の解題は訳者側で補った。